

人生を楽に生きるためのメッセージを箸蔵寺のご住職に伺いました。

人生 応援 メッセージ

企画・制作／徳島新聞社営業局

子育てをしている親御さんから、「育てる自信がない」というようなお話を伺いすることがあります。それ以外にも、様々なことで「本当に自分はやっていけるのだろうか」というご相談を受けることもあります。この様な時、私は真言宗の修行のことを思い出します。

仏教の中でも真言宗の修行のスタイルは独特のもので、一般的な修行といえば、迷いを捨て、煩惱を消し去ることによって悟りの境地に至るというイメージがあると思いますが、真言宗では、いきなり自分が仏様になったと思うところから始まります。仏様ならどのようなことを感じ、どのような行いをするかを考えながら、仏様の境地（悟り）を理解していくという方法をとるのです。「なれるようにがんばる。」のではなく、「なっちゃった。さて、どうしよう。」という考え方です。修行の内容は厳しいですが、考え方によつては最もポジティブな修行法かも知れません。できるかできないかは関係なく、できたと思えば進んでいくわけですから。子育てのお話に対しては、真言宗の修行の考え方からすれば、「できるかどうかは重要ではなく、とりあえず、その子にとっては、代わりのいないたった一人の親になっちゃったんだから、親なら、今、何をするかを考え、自分のできることをできるように行い、子供と共に成長していけばいい。」ということになります。

もちろん、今の自分を冷静に見つめ、できるかどうかを考えることは大切なことだと思いますが、知ることと、答を出すということは別のものです。どこかの時点で区切りをつけ、答を出してしまうと、その後の成長や変化に気付かないということになりかねません。「分別がある」という言葉は、現在では、「もの道理がわかる」という、良い意味で使われています。しかし、古くからの仏教での使われ方では、「無分別」のほうが、「ものを分け隔てなく考える」という意味で、分別よりも良いことだとされています。「私って、○○な人だから」を何度も使う方がいますが、そういう方は、自分の分析が既に済んでいる分別のある方かも知れません。しかし、取りようによっては、今後の自らの変化や成長を閉ざしてしまっている方のようにも見受けられます。

環境の中で人は成長します。ずっと背伸びをして頑張っていたつもりでも、気がつけば、いつの間にか踵（かかと）が付いていて、自分の背の高さになっていくこともあります。自分の「あるがまま」は、日々変化していきま
す。自分を知るといことは、日々変わりゆく自分の可能性までも見つけていくということになります。そういう変化をも楽しみなから、心豊かな日々を過ごされますよう、心よりお祈りします。

皆さまのご感想をお待ちしています!



この紙面に対する感想や取り上げてほしい内容などがありましたら、お気軽にお寄せください。郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入の上、〒770-8572徳島新聞社営業局営業部「人生応援メッセージ」係までお送りください。

※お送りいただいた方の個人情報は、当社で厳重に管理し、ご本人の同意なしに第三者に開示、提供することはありません。



筆者ご紹介

真言宗御室派別格本山
箸蔵寺 第六十四世住職
さとう せいじん
佐藤 盛仁氏

【略歴】北海道大学経済学部
経済学科卒業・総本山仁和寺内仁和密教学
院卒業。高野山大学院修士課程密教学科修
了。箸蔵寺に入山の後、徳島県教育委員会の
委員、委員長を歴任。他にも多数のキャリア教
育関連の講演実績があります。

・箸蔵寺公式サイト <http://www.hashikura.or.jp/>
・ブログ「法爾自然」 <http://www.hashikura.or.jp/blog/>